

ブロッコリー

グリーンプラザ 営農指導員 三枝 宏禎



農作業

テクニカルダイアリー



サトイモ

営農部 営農振興課 営農指導員 松本 有希子

異常花蕾
主な原因は気温の高低や、養分バランスの崩れによるもので

定植は本葉2.5〜3枚の若苗定植とし、台風や豪雨時の排水対策として、①明渠の設置、②高畝栽培など事前にできる対策を講じておくことも重要です。

播種〜定植までの注意点
発芽適温は25℃前後です。灌水は、発芽揃いまでは培土が乾かないようにたっぷりとし、その後の育苗期は徒長を防ぐため、朝1回の灌水で夕方には表面が乾く程度とします。育苗期間中は高温期となるため、遮光資材の活用や育苗トレイを地面から30センチほど離すなど、極力温度を下げる工夫をしてください。



写真4 リーフィー(さし葉)

リーフィー(さし葉)の発生は、生育途中で停止し栄養生長が逆戻りした結果、花蕾の間に葉が発生します。



写真3 ボットンング(早期抽苔)

ポットンング(早期抽苔)は、花蕾肥大に必要な葉数を確保する前に花芽分化し、結果的に小花蕾となります。
《主な原因》
幼苗期の低温感応、苗の老化による活着不良、肥料切れ、根痛み



写真6 ブラウンビーズ

ブラウンビーズは、花蕾肥大期にストレスを受



写真5 不整形花蕾

不整形花蕾は、花芽分化時の低温不足、花蕾分化後の高温、窒素過多、追肥の遅れ、小花蕾がバラバラに大きくなり花蕾表面が凹凸したり、着色が不均一になったりします。
《主な原因》
高温で生長が早すぎる、窒素過多、高温条件、播種時期の不適



写真7 キャッツアイ

キャッツアイは、花蕾粒の不揃い、小花蕾の中央の蕾が小さく猫の目状となります。
《主な原因》
排水不良、窒素過多、過度な密植

5月の分析経過について

| | | |
|-----------------------------------|---------|------|
| 残留農薬分析点数 | 多成分一斉分析 | 合計8点 |
| | 小玉スイカ | 1点 |
| | ソラマメ | 1点 |
| | 春トマト | 1点 |
| | シシトウ | 1点 |
| | パレイショ | 1点 |
| | 夏ネギ | 1点 |
| | メロン | 1点 |
| | カボチャ | 1点 |
| ※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。 | | |
| 土壌診断点数 | | 合計7点 |



写真1 サトイモの疫病(葉柄の病斑)

昨年、写真①②のような症状が発生した圃場では、防除を行いました。発生してからの防除では効果が低く、葉が繁茂してからでは薬剤を散布しにくく、また、薬剤も付着しにくくなります。防除のタイミングは図①を参考にしてください。

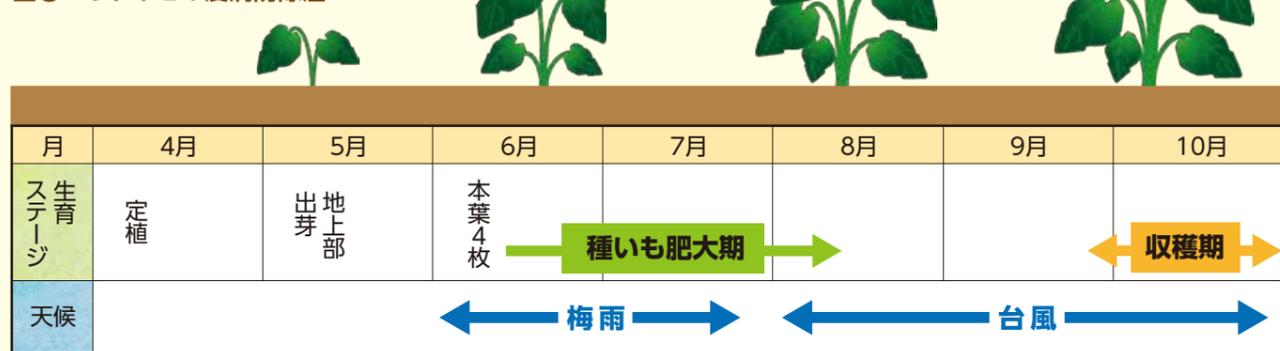
疫病がまん延しやすい条件は、①気温が25℃以上であること、②強風および降雨があることです。特に大雨や強風の後は、傷付いた葉などから病原菌が侵入し、疫病が発生しやすくなります。生育早期にまん延すると、葉が傷んで芋の肥大に影響を及ぼします。前年、疫病の発生があった場合は、必ず防除を行います。



写真2 サトイモの疫病(葉に輪紋状の病斑が発生)

発生があった場合は、必ず防除を行います。防除は本葉4枚ごろから、ジーファイン水和剤またはペンコゼブ水和剤の予防剤を開始します。ランマンフロアブルが適用拡大し、里芋の疫病で使えるようになりました。散布時は株元までしっかりとかかるようにしてください。葉が繁茂する前に予防剤を散布することで疫病の発生を遅らせることができます。発生を確認もしくは台風などで強風や降雨が連続的であった場合は、アミスター20フロアブルまたはダイナモ顆粒水和剤の治療効果のある薬剤を散布します。里芋の葉は薬剤が付着しにくいいため、薬剤散布時には、必ず展着剤(アプローチBIなど)を加用しましょう。

図① サトイモの疫病防除暦



予防剤

- ランマンフロアブル (2000倍、収穫前日まで、2回以内)
- ジーファイン水和剤 (1000倍、収穫前日まで、制限なし)
- ペンコゼブ水和剤 (500倍、収穫7日前まで、2回以内)

治療剤

- アミスター20フロアブル (2000倍、収穫14日前まで、3回以内)
- ダイナモ顆粒水和剤 (2000倍、収穫21日前まで、3回以内)

※収穫前日数に注意して使用してください。